



李富子さん

ブイコフ(旧内淵) 2017

第31回 林忠彦賞

「Sakhalin」

(サハリン)

新田 樹

サハリンの州都・ユジノサハリンスク。

1996年当時、日本人だと分かると市場で働く何人かの女性たちは日本語で話しかけてきた。この現実を写真に残したい。しかしどうすることもできなかった。この繊細なテーマに長年こだわり続けている写真家がいる。東京を拠点に活動する新田樹さんだ。

1967年福島県出身。東京工芸大学工学部在学中に写真サークルに入り、報道写真の虜に。卒業後は写真家を目指しスタジオマン、半沢克夫氏のアシスタントを経て1996年独立した。

すぐにロシア撮影旅行に出る。そこは幼き日、ラジオでモスクワ放送を聞きながら憧れた地であり、1991年ソ連崩壊後の混乱は写真家として押さえておきたいところだった。この旅の途中で立ち寄ったのがサハリンであった。

帰国後は雑誌の仕事をしながら、写真展を中心に活動を続けてきた。2007年にはロシア・コーカサス地方を撮った写真展「樹木の相貌」を開催した。さらにはこのあたりから若者に声をかけ人物写真を撮り始めた。相手の懐に飛び込む撮影法だ。このスタイルに慣れてきた頃、かつて諦めたサハリンのことが甦ってきた。今なら彼女たちに向き合えるかもしれない。そして2010年再び同地へと向かった。

その成果は、2015年写真展「サハリン」となり、2022年には写真展「続サハリン」と続き、このふたつの写真展をまとめた写真集『Sakhalin』も刊行した。それらは「Sakhalin」として見事、第31回林忠彦賞を獲得した。

日本語を話していたのは日本の統治下にあった樺太で暮らし、戦時下を生き抜き、戦後は母国に帰れなかった、いや帰ろうとしな

かった朝鮮半島出身者や配偶者の日本人たちであった。

この作品は、新田さんが女性たちの日常に寄り添いながら撮った写真に文章が添えられ、彼女たちが日本各地の方言で語った会話体そのまま載せられている。皆さん夢を抱いて樺太へやってきたのだ。そして戦争で時代が変わってもこの地に残った数々の事情が、ふたりの女性の人生を軸に解き明かされていく。

ひとは、はじめて声を掛けてくれた金公珠さん。1927年慶尚北道出身の両親のもと横浜で生まれ樺太に。炭鉱の寮長をしていた朝鮮人と結ばれこの地で暮らしてきた。新田さんにサハリンの扉を開けてくれた恩人で2014年春に亡くなった。

ふたり目はその1ヶ月後に出会った李富子さん。1929年朝鮮人の父とロシア人の母の間に北遠古丹で生まれ、樺太で外国人居留地・牧場の沢で暮らした過去を持っていた。娘時代の淡い恋は戦争によって突然途切れてしまう。彼女の運命からも歴史に翻弄された様子が伝わってくる。

全編を通して感じるのは、人間としての生き方を静かに問うているところだ。彼女たちがこの地に残ったことが正解だったかどうかは分からない。金公珠さんの場合、韓国への永住帰国が叶うのにここに残った。

「子供たちを置いていけば、今度は二重の離散家族になるでしょう。もういい、私は子供たちのそばで。そう思っています」。

彼女の言葉に迷いはなかった。

(周南市美術博物館館長 有田順一)



第31回林忠彦賞

「Sakhalin」(サハリン) 新田 樹 NITTA TATSURU



金公珠さん ユジノサハリンスク(旧豊原) 2011



ブイコフ(旧内淵) 2011



旧王子製紙株式会社知取工場
マカロフ(旧知取) 2017



ウラジクの長女レーナさん(公珠さんのひ孫)
ユジノサハリンスク(旧豊原) 2014

『Sakhalin』は、第二次世界大戦後、サハリン(樺太)を離れることがかなわなかった残留韓国・朝鮮人とその配偶者の日本人を追った作品です。作者は2010年から最後の生き残りともいべき人たちの家を何度も訪ね、丁寧に取材し、その生活や周りの様子をカメラにおさめていきました。本作は戦争の歴史に翻弄された人々の姿が写真の行間から浮かび上がるドキュメンタリーの仕事として高く評価されました。



林忠彦賞
ホームページ



新田 樹

プロフィール

1967年福島県出身。東京工芸大学工学部卒業後、麻布スタジオを経て半沢克夫氏に師事。1996年独立。2015年写真展「サハリン」、2022年「続サハリン」開催。2022年写真集『Sakhalin』(サハリン)出版。

受賞記念写真展

■ TOKYO

富士フィルムフォトサロン

4月28日(金)→5月4日(木・祝)

観覧
無料

■ YAMAGUCHI

周南市美術博物館

5月12日(金)→21日(日)

観覧
無料

EVENT 新田 樹さん来館!

- 作品解説(申込不要)※参加無料
5月12日(金)

※9時30分からの開会式終了後

- トークショー※参加無料

※新田さんに作品についてお話を聞きます。

5月13日(土)10時30分～

定員
40名

話し手/新田 樹

聞き手/有田順一(周南市美術博物館館長・林忠彦賞選考委員)

会場/周南市美術博物館 講座室

※電話で申し込み・先着順

(周南市美術博物館 0834-22-8880)

ホームページより5人の選考委員へのインタビューをご覧ください。

最新情報はホームページでご確認ください。

しゅうなん
アート・ナウ2023

今年もたくさんの方にご観覧いただきました。ありがとうございました。



アニメ化30周年記念企画
ちびまる子ちゃん展

6/10-7/17

10時～17時(入館無料)

会場: 周南市美術博物館

お問い合わせ: 0834-22-8880

1986年、少女マンガ雑誌「りぼん」(集英社)で連載が開始した「ちびまる子ちゃん」は、1990年にアニメ放送が始まり、2020年に放送開始30周年を迎えました。

明るくてユーモアあふれるまるちゃんと仲間たちが繰り広げる日常を描き、放送時間帯にはお茶の間に笑いで包まれる、みんなに愛されつづけている国民的アニメです。

本展では、セル画、スケッチ画、絵コンテ、映像など約350点を展示し、アニメ制作の舞台裏を紹介します。また、2018年に急逝された原作者さくらももこ先生の直筆脚本やキャラクター設定資料、プライベート作品なども展示し、アニメへの想いや日々の暮らしに迫ります。

まるちゃんと仲間たち、そしてさくら先生への愛があふれる会場で、「ちびまる子ちゃん」の世界をぜひお楽しみください。

ひほく
美博クイズ〜! <112> もんだい

はやしただひこ だいひょうさく
林忠彦の代表作でもあるこの
さくひん うつ ひと
作品。写っているこの人はだれ
でしょう。

さつ か だいひょうさく
作家。代表作は
ヒント
はし にんげん しっかく
「走れメロス」「人間失格」



こたえはどこかのページにあるよ。さがしてみよう!

LAWSON

Frozen Party

ストロベリー 各340円(税込) チョコレート

LAWSON STATION 徳山動物園前店 0834-32-8363

※画像はイメージです。

周南市美術博物館
常設展示

- 常設展観覧料：一般200円(160円) 大学生等100円(80円) ()内は20名以上の団体
 ※18歳以下および70歳以上無料 ※林忠彦賞受賞記念写真展の会期中(5/12~21)は常設展無料
 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日：月曜日

展示室 3 コレクション展示室

新収蔵品展 5/21(日)まで開催中

令和4年度に新たに収蔵された作品を中心に「新収蔵品展」を開催しています。
 周南市美術博物館では、周南市ゆかりの作家の業績や歴史資料を後世に伝え、また特色あるコレクションを目指して、資料の収集を行っています。
 美術部門では宮崎進や河上大二、森寛斎などの作品、写真部門では、第30回林忠彦賞受賞作品「東京 二〇二〇、二〇二一。」(初沢亜利)を展示しています。また歴史部門では児玉源太郎や野口雨情の書、大向出土資料(「天目茶碗」や「青花花文皿」)などをご覧ください。

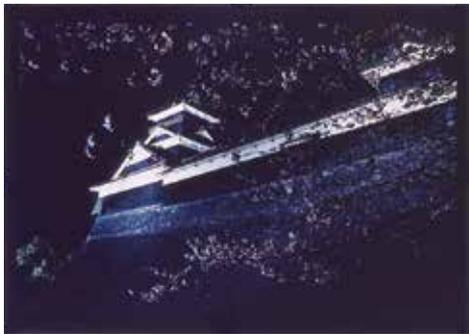


河上大二 「田植」 水彩・紙

展示室 4 林忠彦記念室

写真集発刊40周年記念
「西郷隆盛」
7/9(日)まで

写真集『西郷隆盛』には、作家の松本清張が「林忠彦と西郷隆盛」と題した文章を寄せています。松本清張は、「林さんはこの写真集に西郷の軌跡を克明に追い、その背景となる風土を入念にとり入れた」「戦闘経過にしたがって林さんは日向路に薩摩路に、その古戦場を訪ねて、蕭条とした雰囲気ある写真にしている」と評しています。
 林忠彦は、明治維新に大きな役割を果たしながらも、最後は西南戦争で敗れ自刃した英雄の波乱に満ちた人生を、鹿児島をはじめとした南九州の風景の中に求めました。人物写真の第一人者として、常に人物の内面を追い続けてきた林ならではの作品といえます。



「熊本城宇土櫓」

展示室 5 まど・みちおコーナー

今回の内容の展示は
6/30(金)まで

まど・みちおは、1961年～1964年にかけて集中して抽象画を描いています。これらの作品は、身近にあったクレヨン、水彩絵の具、マジック、フェルトペンやボールペンなどを使って画用紙に描かれています。
 何重にも塗り重ねることで独特な色味が生み出されます。この作品もクレヨンを塗り重ねて作り出された、さまざまなニュアンスの「青」が印象的です。



「さいくる」(未完) 1961(昭和36)年11月1日

徳山の歴史 特設コーナー

「系図をひもとく」 7月2日(日)まで

系図とは、その家の先祖代々の血筋を書きあらわしたものです。一見するとどのように見たらよいのか、難しいと感じるかもしれませんが、だいたい決まった定形で書かれています。
 今回の特設コーナーでは、毛利家と児玉家の系図から読みとき方を紹介します。



周南市美術博物館 その他の5月の展覧会 9:30~17:00(入館は16:30まで) **入場無料**

- 第15回書苑展 5/6(土)~7(日) (5/6は13:00~、最終日は16:00終了)【展示室1】

ひばく 美博クイズ~!(112) こたえ

せい かい だ ざい おさむ
正解 太宰治

この写真は銀座のバー「ルパン」で撮影した写真だよ。太宰治は「ルパン」をよく利用していたんだ。林忠彦記念室には、「ルパン」のカウンターが再現されていて、太宰のほか、織田作之助や坂口安吾の写真もあるよ。そこは撮影OKなので、カウンターの椅子に座って自分の好きなポーズで撮影してみてね。

日通の えころじ
こんぽ

お見積り無料。まずはお電話を!

0120-154022
ひっこ し は にっつう

www.nittsu.co.jp/hikkoshi/

ART and HISTORY インフォメーション

周南

周南市美術博物館 ☎0834-22-8880

第31回林忠彦賞受賞記念写真展
新田樹[Sakhalin] 5/12(金)~21(日)

新収蔵品展 ~5/21(日)

第15回書苑展 5/6(土)~7(日)

周南市郷土美術資料館 ☎0834-62-3119

生誕110年 尾崎正章の世界展 ~6/4(日)

山口

山口県立美術館 ☎083-925-7788

佐藤健寿展 奇界/世界 ~6/11(日)

萩

山口県立萩美術館・浦上記念館
☎0838-24-2400北斎VS広重 いっさい見!
富嶽三十六景と東海道五十三次
~5/28(日)

萩博物館 ☎0838-25-6447

古写真で見る幕末明治
~海外渡航者編~ ~6/18(日)

長門

香月泰男美術館 ☎0837-43-2500

香月泰男 全版画展 後期
~6/19(月)

下関

下関市立美術館 ☎083-245-4131

所蔵品展No.159
新収蔵品紹介/花めぐり・静物画の世界
~5/21(日)潮流・下関2023
勝原美紀枝 文月今日子 村岡真樹
三人展 Three Lives
~5/21(日)

下関市立歴史博物館 ☎083-241-1080

タイムスリップ!
一絵図・地図に描かれた昔日の下関
~5/28(日)

~ TOSOH PARK 永源山の中にある美術館 ~

周南市郷土美術資料館・尾崎正章記念館

- 9時30分~17時(入館は16時30分まで)
- 観覧料：一般200円(160円) 学生等100円(80円)
()内は20名以上の団体 ※18歳以下および70歳以上無料
※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳等をご持参の方とその介護の方は無料
- 休館日：月曜日



生誕110年

6月4日(日)まで開催中

尾崎正章の世界展



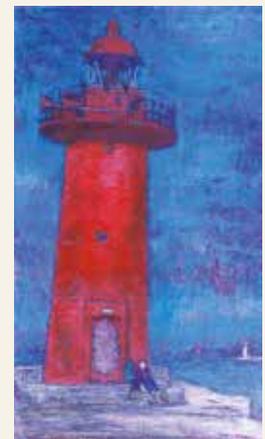
「北の港の子たち」1978年

尾崎正章(1912~2001)は、ふるさと周南を中心に、人物や港の風景、身近な品々などをモチーフに絵を描きました。

今回は生誕110年を迎えたのを記念し、初期から晩年まで、彼の世界観を感じていただける作品を全館展示しています。初期の静物画や女性像をはじめ、最晩年に制作した「港(なかよし)」まで、作品の移り変わりとともにご覧いただけたらと思います。

「ブチトマト」
1996年

※尾崎の使っていた道具も展示しています



「港(なかよし)」2001年

最新の情報は、当館ホームページでご確認ください。 <http://s-bunka.jp/kyoubi/>

十月頃になると、小中学校の生徒さんが校外学習などで美博に来館します。初めて美術館に来た子どもたちは、まだ作品との接し方が分からず、美術館は難しいと感じてしまうかもしれません。そこで美博では、見て・触れて・体験できる場をつくっています。パー「ルパン」のカウンターでの写真撮影は、気軽に林忠彦の作品に接することができるので、とても人気です。林忠彦記念室は常設展示していますので、いつでも気軽に立ち寄りください。

(津村)

ミニコラム
ガス燈

子どもの頃のアルバムを見返すと、美博(美術館)での写真が出てきました。その写真は、徳山市から周南市に変わった頃なので、ちょうど20年前になります。その写真は僕が林忠彦記念室でポーズを取っている写真でした。

美博では、基本的に著作権保護のため撮影はできませんが、林忠彦記念室の銀座のパー「ルパン」のカウンターを再現した場所では写真撮影が可能です。「ルパン」は太宰治ら多くの文豪に愛された場所でも、林忠彦がそこで撮影した太宰治の写真は、彼の代表作となっています。